

憲法9条は宝



「戦争する国」づくりストップ！

元高槻市立小学校長の曾和照之さん（元管理職経験者への「9条守れーアピール」呼びかけ人の一人）から、自らの戦争・軍隊経験と平和の大切さを訴える記事を寄せていただきました。



9条守れ！アピール運動記者発表
（4月28日府教育記者クラブ）

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

日本国憲法9条
ノーベル平和賞候補に！
（2014年・2015年）

9条守れの声を
ごいっしょにひろげましょう



元陸軍二等兵の心
高槻退職教職員
曾和 照之さん（90歳）

敗戦の数日後、班長から食糧配給の指令が出て生米が配られた。受けとった者は自由に帰郷してもよいということ。帰郷の支度にとりかかった。愛媛県の西端「うのまち」から列車と宇高連絡船で、やっと岡山についた。すでに大阪方面の列車がなく、仕方なく駅構内で野宿と思い、うろついていたら、補助憲兵につまり大変なリンチを受けた。

理由は、尊い日の丸を風呂敷代わりにしているとのこと。補助憲兵は「再び日の丸を掲げるときが来るのだ。それまでは、大切にしまっておけ！」と言いつつ、いま、再び彼の言ったような状況が迫っているように思える。憲法9条をもっともっとゆるぎないものにしていく活動が、今後にかかっていることを痛感している。

戦争の事実を知り、平和への確かな力に



「戦地からの手紙」を出版された紅谷章子さん

その背景には、昨年7月の安倍内閣による「集団的自衛権の閣議決定」という事態があり、せかされながらそこに生かされています。

父は何も言わずに亡くなったので、見つけた時の、衝撃は言葉で言い尽くせません。手紙の内容も衝撃的です。内陸の猛暑、凍りつく深夜を行軍する様子、戦闘のすさまじさ、竹馬の友の戦死、中国や朝鮮の人々、内地の家族への

父は「手紙」をきちんと整理して送っていたのに、なぜ戦争に受け、負傷して解除になるまでの1年6か月に及ぶ記録です。

父は「手紙」をきちんと整理して送っていたのに、なぜ戦争に受け、負傷して解除になるまでの1年6か月に及ぶ記録です。

父の「戦地からの手紙」を編集して思ったこと

大阪私学退職教職員 紅谷 章子さん

父からの手紙が「証言者」

元大阪私立高校長の紅谷章子さんは、元管理職経験者への「9条守れーアピール運動」呼びかけ人の一人です。アピール運動記者発表の場で、自ら出版された著書にかわり平和への思いを語られその内容が、毎日新聞に掲載されました。本の出版・編集にかかわった思いを寄せていただきました。

編集しての思いは、①戦争へと国民の精神を総動員していく軍国政治、それを煽り立てるマスコミと教育の果たす役割。②当時の日本の軍隊の特徴である食糧の現地調達（略奪と飢えを伴う）家族からの膨大な量の小包でまかなわれていたこと。③父は兵站をまかなう輜重兵として武器を十分に持たせてもらえず、多くの戦死者を出したことが、相手にとっては、後続部隊であろうと敵であることには違いない。④苦難の道を歩んだ中国や朝鮮の人々のこと。

安倍政権は戦争法案を、今非常に乱暴なやり方で国会に提出し、日本を再び戦争する国に、アメリカのやる戦争に積極的に協力しようと、私たちの「教え子」をふたたび戦争に送らない」という決意を踏みにじろうとしています。

しかし、父の時代と現代との決定的な違いは、多くの国民が真実を知り、運動を知り、憲法9条の大切さを知っていることです。父たちの思いがそこに生かされています。